

## 2019年度 授業計画(シラバス)

科目名	衛生管理		コース名	ヘアビューティ			
担当教員	森下 堅一	学年・学期	1年・通年	時間数	60 時間	必須・選択	必須
授業概要・ 授業方法	<p>・美容師が公衆衛生の維持と増進をしなければならない理由と、環境衛生の意義と目的を美容の業務と関連付けながら具体的に理解させる。また、美容業務と感染症予防の重要性を深める。</p> <p>・授業は講義形式で美容師国家試験(筆記)で過去に出題された部分を中心に、单元ごとにまとめたものをパワーポイントを使用して説明を行う。学生には重要点をノートにまとめてもらい、テスト前にすぐに確認ができるようなものを作成してもらい、ノートの提出や小テストも行い、学期末には前・後期テストを実施する。</p>						
到達目標	<p>・美容師が行わなければならない、公衆衛生の維持と増進についての理解と美容の業務と環境衛生がどう関わるのかを知ることと、美容業務と感染症予防の重要性を理解する。</p> <p>・美容師国家試験(筆記)課題でもあり、1年次で学習する「公衆衛生」「環境衛生」「感染症」をしっかりと理解した上で、2年次に繋げていく。そして、美容師国家試験合格を目標とする。</p>						
授業計画・内容							
第1週	1編 公衆衛生 1章 公衆衛生の概要 1節 公衆衛生の意義と課題	第16週	5節 衛生害虫とネズミ ・衛生害虫 ・ネズミ				
第2週	2節 公衆衛生発展の歴史 ・欧米の公衆衛生の歩み	第17週	6節 環境保全 ・水質汚濁				
第3週	2節 公衆衛生発展の歴史 ・我が国の公衆衛生の歩み	第18週	3編 感染症 1章 感染症の総論 1節 人と感染症 ・感染症発見の歴史				
第4週	2節 公衆衛生発展の歴史 ・消毒法の歴史	第19週	1節 人と感染症 ・感染症と法律				
第5週	3節 理容師・美容師と公衆衛生 ・歴史の中の理・美容師と公衆衛生	第20週	1節 人と感染症 ・感染症の分類				
第6週	2章 保健 1節 保健 ・母子保健 ・成人・高齢者保健	第21週	2節 病原微生物 ・微生物の種類 ・微生物の形と大きさ				
第7週	2章 保健 1節 保健 ・精神保健	第22週	2節 病原微生物 ・微生物の構造 ・微生物の増殖と環境の影響				
第8週	2編 環境衛生 1章 環境衛生 1節 環境衛生の概要 ・環境衛生の内容	第23週	3節 感染症の予防 ・微生物の病原性と人体の感受性 ・汚染、感染、発病				
第9週	1節 環境衛生の概要 ・環境衛生の目的と意義	第24週	3節 感染症の予防 ・常在細菌叢 ・免疫と予防接種				
第10週	1節 環境衛生の概要 ・環境衛生活動	第25週	3節 感染症の予防 ・感染症発生の要因 ・感染症予防の3原則				
第11週	2節 空気環境 ・空気と健康 ・温度、湿度、気流と健康	第26週	3編 感染症 2章 感染症の各論 1節 理容・美容と感染症				
第12週	3節 衣服・住居の衛生 ・衣服、住居の衛生	第27週	2節 主な感染症 ・空気、飛沫、飲食物を介して感染する病気				
第13週	4節 上・下水道と廃棄物 ・上水道	第28週	2節 主な感染症 ・血液、動物・節足動物を介して感染する感染症				
第14週	4節 上・下水道と廃棄物 ・下水道	第29週	3節 具体的な対策の例 ・標準予防策 ・咳のある客への対応				
第15週	4節 上・下水道と廃棄物 ・廃棄物	第30週	3節 具体的な対策の例 ・病変の皮膚をもつ客、嘔吐した客への対応				
評価方法	<p>定期試験(前期・後期)を実施し、ノートの提出、小テスト、授業態度や出席状況を考慮して成績を評価する。 ※定期試験(70%)・ノートの提出や小テスト(20%)・授業態度や出席(10%)</p>						
教科書 教材など	<p>・「衛生管理」公益社団法人 日本理容美容教育センター発行 ・プロジェクター(パワーポイント使用) ・A4ノート(1人1冊配布)</p>						
実務経験	美容師経歴7年			実務経験のある教員による 授業科目		✓	

## 2019年度 授業計画(シラバス)

科目名	保健		コース名	ヘアビューティ			
担当教員	岩瀬 泰	学年・学期	1年・通年	時間数	30 時間	必須・選択	必須
授業概要 ・ 授業方法	<p>・美容の業務は人の容姿を美しくするだけではなく、人体の構造及び各機能についての知識が美容師として必要であることを理解させる。</p> <p>・授業は講義形式でプロジェクターを使用し写真や図などを表示することで、理解を深めていき、また小テストや提出物により理解できていない単元をピックアップし再度教える。</p>						
到達目標	<p>・美容師試験筆記課題のため、1年次より十分な理解が必要と考えている。そのため1年次は重要点をノートにまとめ提出させ確認することにより、2年次での授業に繋げ国家試験筆記の合格を目指す。</p>						
授業計画・内容							
第1週	保健を学ぶにあたって * 健康と美容師	第16週	5章 聴覚・平衡感覚 * 耳の耳介から内耳に至る構造と各器官について				
第2週	1章 人体各部について * 全身の解剖学・表面の解剖学及び名称	第17週	5章 味覚・嗅覚 * 味を感じる細胞と、匂いを感じる細胞について				
第3週	1章 顔部の眼と鼻、口周辺について * 解剖学的名称と解説	第18週	6章 血液・循環器 * 血液 成分と各血球の分類と役割、				
第4週	2章 骨格器 骨の構造と種類 * 骨の連結や、全身骨格について	第19週	6章 血液循環の仕組み * 心臓・血管の構造と動脈、静脈について				
第5週	2章 頭蓋について * 頭蓋の分け方と、泉門について	第20週	6章 循環経路1 * 大循環の経路の説明				
第6週	2章 脊椎と胸郭、上肢、下肢 * 各部の構造および、名称について	第21週	6章 循環経路2 * 小循環の経路と門脈循環について				
第7週	3章 筋系 筋の種類 * 平滑筋や、横紋筋の解説	第22週	6章 血圧及びリンパ * 血圧の説明と、リンパ管、リンパ節のはたらき				
第8週	3章 全身の筋 * 頭部の筋と、頸部の特徴について	第23週	7章 呼吸器 呼吸器について * 呼吸器の構造及び、気道について				
第9週	3章 上肢・下肢・体幹の筋 * 構造と名称、及びはたらきについて	第24週	6章 肺 * 肺の仕組みとガス交換について				
第10週	3章 表情筋と筋運動 * 目や口等の周り にある筋、名称と表情の関係について	第25週	6章 呼吸運動 * 呼吸運動で使われる筋と 仕組み、及び肺活量など				
第11週	4章 神経 神経の成り立ちについて * 神経組織についての成り立ち	第26週	8章 消化器 消化器のあらまし * 消化とは何か				
第12週	4章 中枢神経 脳の構造、役割及び機能。 * 脊髄の分け方と機能について	第27週	8章 消化管 * 口腔から始まる経路や機能について				
第13週	4章 末梢神経 体性神経の構造と機能 求心 性、遠心性	第28週	8章 口腔・歯、唾液腺 * 口内の器官、歯の構造、唾液腺の種類				
第14週	4章 自律神経 自律神経とはどのようなもの なのか、その役割 交感副交感神経について	第29週	8章 胃及び腸 * 胃の構造、機能 聴覚部の名称機能				
第15週	5章 感覚器 視覚 * 眼の構造と光を感じる細胞について	第30週	8章 消化管のはたらき * 物質代謝 咀嚼や嚥下、栄養素と肝臓の関係				
評価方法	<p>・定期試験を実施すると共に授業時の重要ポイントをまとめたノートの提出、授業態度や出席状況を考慮して成績を評価する。</p> <p>※評価目安: 定期試験(70%)・ノート提出(20%)・授業態度や出席(10%)</p>						
教科書 教材など	<p>①公益社団法人日本理容美容教育センター発行: 書名「保健」</p> <p>②視聴覚教材: プロジェクター(パワーポイント)</p>						
実務経験	美容師経歴23年	実務経験のある教員による 授業科目			✓		

## 2019年度 授業計画(シラバス)

科目名	化粧品化学		コース名	ヘアビューティ			
担当教員	仁井名 由記	学年・学期	1年・通年	時間数	30時間	必須・選択	必須
授業概要 ・ 授業方法	<p>・化粧品の原料や配合などの成り立ち、性状、使用目的のほか、どのような薬品が化粧品に属するのか、その定義、社会的意義や特性、法的な根拠、製品の安定性について学習していく。</p> <p>・授業は講義形式で單元ごとに確認テストを行い、理解度を確認しながら進めていく授業である。</p>						
到達目標	<p>美容師として必要な薬品の知識を学ぶことにより、お客様に提供する際の説明ができることや国家試験合格を目標にして、そこにたどり着くための忍耐力を養う。</p>						
授業計画・内容							
第1週	1章 化粧品概論 1節 化粧品の社会的意義と品質特性 2節 化粧品の規制	第16週	6節 色材 1色材と化粧品 2無機顔料				
第2週	3節 化粧品の安定性と取扱上の注意 4節 化粧品と安全性	第17週	3 有機合成色素 4光輝性顔料				
第3週	2章 化粧品原料 1節 化粧品の対象となる人体各部の性状	第18週	5 天然色素				
第4週	2 皮膚と水 3 頭皮や毛髪健康な状態	第19週	7節 香料				
第5週	4 爪の性状 5まぶたや口唇や性状	第20週	8節 その他の配合成分 1化粧品原料の品質保持に用いられる配合成分				
第6週	2節 水性原料 1 水 2 エタノール	第21週	2 化粧品配合成分があたえる機能				
第7週	3節油性原料 1油脂 2ロウ類 3炭化水素	第22週	3 その他特殊成分				
第8週	4その他油性原料 5 油性原料の機能	第23週	5節 高分子化合物				
第9週	4節 界面活性剤 1界面活性剤の基本的性質 2界面活性剤の種類	第24週	9節 ネイル、まつ毛エクステンション用材料 1合成樹脂				
第10週	3界面活性剤の化粧品への応用	第25週	2 接着剤 3塗料				
第11週	5節 高分子化合物 1 高分子化合物と特性	第26週	3章 基礎化粧品 1節 皮膚清浄用化粧品 2節 化粧水				
第12週	2 高分子化合物の化粧品への応用	第27週	3節 クリーム・乳液 4その他の基礎化粧品				
第13週	復習	第28週	復習				
第14週	復習	第29週	復習				
第15週	復習	第30週	復習				
評価方法	<p>定期試験を実施し、毎授業時間後に行う小テスト、課題、出席状況、授業態度を考慮して成績を評価する。</p> <p>※評価目安: 定期試験(34%) 小テストやレポート(33%) 授業態度や出席(33%)</p>						
教科書 教材など	<p>出版社: 日本理容美容教育センター 書名: 化粧品化学 ・講師作成プリント</p>						
実務経験	株式会社 毛髪クリニックリープ21 3年			実務経験のある教員による 授業科目		✓	

## 2019年度 授業計画(シラバス)

科目名	文化論		コース名	ヘアビューティ			
担当教員	長瀬 佳子	学年・学期	1年・通年	時間数	60 時間	必須・選択	必須
授業概要・ 授業方法	<p>・理容・美容業の成り立ちや、古代から現代までのファッション文化を学び、お客様とのコンセンサスを得るための基礎として美容文化の歴史を学ぶ授業である。</p> <p>・授業はテキストを中心に、講義形式やグループワークで行う。歴史の流れや、日本と西洋の違いや関連を感じやすいように日本と西洋の同時代を交互に進めていく授業である。</p> <p>また演習授業として歴史に加え、2年次のヘアデザイン画のための基礎練習として、鉛筆を用いたデッサンや色鉛筆を使った彩色などの授業を行う。</p>						
到達目標	<p>本科目「文化論」のねらいは、時代の流れと人々の暮らしの中で育まれてきたヘアやファッションの文化を学び、これからの時代やお客さまの求めている「美しさ」を理解するための基礎を身につけることである。そして、美容師国家試験(筆記)に向けて、一通り歴史を学び、2年次に学力が定着できるよう歴史の流れを理解しておく。</p> <p>またデザイン画を通じて、自分の思い描いたイメージを形にし、人に伝えることができるようにする。</p>						
授業計画・内容							
第1週	オリエンテーション、総論と概要		第16週	【ファッション文化史日本】近代① 【デザイン画】陰影の練習			
第2週	【日本の理美容の歴史】発生～江戸時代 【デザイン画】道具の使い方		第17週	【ファッション文化史日本】近代② 【デザイン画】陰影の練習			
第3週	【日本の理美容の歴史】近代～現代 【デザイン画】グラデーションをつくる		第18週	【ファッション文化史日本】近代③ 【デザイン画】陰影の練習			
第4週	【ファッション文化史日本】縄文・弥生・古墳時代 【デザイン画】顔の比率、パーツ練習(目・眉)		第19週	【ファッション文化】年表づくり			
第5週	【ファッション文化史日本】古代(飛鳥奈良平安) 映画鑑賞(かぐや姫の物語)		第20週	【ファッション文化史西洋】近代Ⅰ 【デザイン画】色鉛筆の使い方			
第6週	【ファッション文化史日本】古代(飛鳥奈良平安) 【デザイン画】パーツ練習(鼻・口・輪郭)		第21週	【ファッション文化史西洋】近代Ⅱ 【デザイン画】色鉛筆の使い方			
第7週	【ファッション文化史日本】古代(飛鳥奈良平安) 【デザイン画】線の練習		第22週	【ファッション文化史日本】現代Ⅰ 【デザイン画】色を使ったヘアデザイン			
第8週	【ファッション文化史西洋】古代エジプト・ギリシャ・ローマ・ゲルマン【デザイン画】陰影の練習		第23週	【ファッション文化史日本】現代Ⅱ 【デザイン画】色を使ったヘアデザイン			
第9週	【ファッション文化史日本】中世 【デザイン画】髪色の練習		第24週	【ファッション文化史日本】現代Ⅲ・Ⅳ 【デザイン画】色を使ったヘアデザイン			
第10週	【ファッション文化史西洋】中世ヨーロッパ 【デザイン画】髪色の質感の練習		第25週	【ファッション文化史西洋】現代Ⅰ・Ⅱ 【デザイン画】色を使ったヘアデザイン			
第11週	【ファッション文化史】前～中期の振り返り・まとめ 【デザイン画】横顔の練習		第26週	【ファッション文化史西洋】現代Ⅲ・Ⅳ 【デザイン画】全身を描く			
第12週	【ファッション文化史日本】近世Ⅰ(江戸) 【デザイン画】いろいろな髪型		第27週	【ファッション文化史西洋】現代Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ 【デザイン画】全身を描く			
第13週	【ファッション文化史日本】近世Ⅱ(江戸) 【デザイン画】模写(男性横顔)		第28週	【ファッション文化史】後期まとめ			
第14週	【ファッション文化史日本】近世Ⅱ(江戸) 【デザイン画】模写(男性横顔)		第29週	【礼装の種類】和装 【デザイン画】テーマに合わせたヘアデザイン			
第15週	【ファッション文化史日本】近世Ⅱ(江戸) 【デザイン画】模写(男性の横顔)		第30週	【礼装の種類】洋装 【デザイン画】テーマに合わせたヘアデザイン			
評価方法	<p>定期試験(前期・後期)を実施し、提出物(授業中でのプリント・実技)、授業態度や出席状況を考慮して成績を評価する。</p> <p>評価目安: 定期試験(70%)・提出物(20%)・授業態度及び出席(10%)</p>						
教科書 教材など	<p>出版社: 日本理容美容教育センター                      書名: 文化論</p>						
実務経験				実務経験のある教員による 授業科目			

## 2019年度 授業計画(シラバス)

科目名	美容技術理論		コース名	ヘアビューティ			
担当教員	岩瀬 泰	学年・学期	1年・通年	時間数	60 時間	必須・選択	必須
授業概要 ・ 授業方法	<p>・美容技術はそれぞれ技術の裏付けとなる根拠があり、その理論や薬剤の取扱い等の説明をし理解させると同時に、技術の方法や注意点なども合わせ習得をしやすいように理解させる。</p> <p>・授業は講義形式でプロジェクターを使用し写真や図、実物などを手に取り、利用しながら授業展開をする。また提出物や小テストにより理解度を確認し、クラス全体の知識を高める。</p>						
到達目標	<p>・1年次は美容実習及び国家試験実技を習得する上で必要とされている理論を教えることを一つの目標としている。また、美容師国家試験筆記課題でもあるため十分な理論の知識を深めことで、美容技術理論の必要性を理解されることを目標にする。</p>						
授業計画・内容							
第1週	序章:技術と理論(作業姿勢。人体・頭部の名称) *なぜ理論が必要であるのか。	第16週	6章 ヘアカーリング2 ピンカール各部の名称・分類 *カールの方向や、ベースについて				
第2週	1章 美容用具1(道具、器具、機械の違いについて) *美容師の道具・用具を理解させる。	第17週	6章 ヘアカーリング3 *ステムの方向、ループ・ピニング等				
第3週	1章 美容用具2(コム・ブラシ・シザーズ・レーザー等) *施術を行う上で必要な各部の名所を覚える。	第18週	6章 ピンカールの作り方・ウエーブ * スカルプ・クロキノールカール・フィンガーウエーブ				
第4週	2章 シャンプーイング1 *目的と成分。目的別シャンプー・界面活性剤と、シャンプー剤の種類。	第19週	6章 ローラーカール *ローラーカールの効果と、巻き方、角度、				
第5週	2章 シャンプーイング2 *シャンプーの注意点と不安やマッサージ効果について	第20週	6章 ブロードドライ ハンドドライヤー *その使い方と道具について				
第6週	2章 シャンプーイング3 技術プロセス *ブラッシングから、バック・サイドシャンプーの違い	第21週	6章 アイロンセット・その他 *持ち方、カールの出し方・ウイックヘアピースについて等				
第7週	2章 リンス・コンディショナー1 *役割と成分カチオン界面活性剤とは等	第22週	7章 カラーリング 種類とタイプ * 染毛剤、染毛料の違いなど				
第8週	2章 リンス・コンディショナー2 *リンス・コンディショナー・トリートメントの違い	第23週	7章 カラーリング 染毛のメカニズム * 酸化染毛剤の作用				
第9週	2章 3 スカルプトリートメント *その目的・成分・手順等、ヘッドスパについて	第24週	7章 色の基本 *色の原理、レベルとアンダートーン 明度彩度等				
第10週	5章 パーマネントウエーブの歴史と理論 *ウエーブ形成の仕組みパーマ剤のはたらき	第25週	7章 パッチテスト 染毛剤と皮膚炎 *パッチテストの実際と方法				
第11週	5章 パーマネントウエーブ 薬剤の分類 *各パーマ剤のタイプ、2浴式・加温式縮毛矯正等	第26週	7章 カラーリングの実際 *ブロッキング、塗布・ブリーチ技術				
第12週	5章 パーマ3 パーマ剤に関する注意事項 * 施術に適さないケースや、トラブル等	第27週	3章 ヘアデザイン 美容とデザイン *ヘアデザインにおける錯覚の利用				
第13週	5章 技術の実際 * ロッドの選定法や、テストカール手順など	第28週	3章 錯覚の種類と説明 *幾何学錯視・ツェルナー錯視等				
第14週	6章 ヘアセッティング ヘアセットとは *基礎的要素、パート・シェープ・コムを持ち方	第29週	3章 デザインの要素 *点と線・面の効果				
第15週	6章 ヘアカーリング *ピンカール各部の名称・分類	第30週	3章 デザインの効果 *方向・比率・バランス等の応用				
評価方法	<p>・定期試験を実施し、授業内で小テスト・授業時にまとめたノートの提出、授業態度や出席状況を考慮して成績を評価する。</p> <p>※評価の目安:定期試験と小テスト(70%)・提出物(20%)・授業態度と出席(10%)</p>						
教科書 教材など	<p>日本理容美容教育センター出版「美容技術理論1。 公益法人理容師美容師試験研修センター発行(美容師実技試験課題「実技の解説及び理・美容衛生読本」)。 視聴覚教材:プロジェクター(パワーポイント)</p>						
実務経験	美容師経歴23年			実務経験のある教員による 授業科目		✓	

## 2019年度 授業計画(シラバス)

科目名	美容実習		コース名	ヘアビューティ			
担当教員	森下 堅一 / 岩瀬 泰 井上 祐樹	学年・学期	1年・通年	時間数	480時間	必須・選択	必須
授業概要 ・ 授業方法	<p>・美容技術を行う上で必要な、基本姿勢や用具類の取り扱いを理解させ、国家試験課題の技術条件に沿って練習を行う。また、「シャンプー」や「カラーリング」など、実践的な技術も習得する。</p> <p>・授業は主に実技演習で、授業により講義で各技術ごとに教科書、パワーポイントを使用して説明をする。実技では、デモンストレーションをすることで実際の動きを理解させる。美容師国家試験課題で課題作成時間が決まっているものは、実技の小テストや定期テストを実施し、目標を達成できるようにさせる。</p>						
到達目標	<p>・国家試験課題である「ワインディング」「オールウェーブセッティング」の技術の条件を理解し、決められた課題作成時間内にできるようにする。また、実技試験における衛生上の取り扱いについても理解することで美容師国家試験(実技)の合格を目指す。</p> <p>・サロンワークに必要な基本的なテクニックや知識を「カット」「セットアップ」「カラーリング」「シャンプー」などの実習を通じて身に付ける。</p>						
授業計画・内容							
第1週	・美容用具の理解と基本姿勢の習得。 ・ワインディング(ブロッキング正確に取る)		第16週	・ワインディング(タイムアップを目指す。) ・サイドシャンプー(トリートメント・ヘッドスパ)			
第2週	・ワインディング(上巻き・下巻き) * 巻く角度を理解させる。		第17週	・オールウェーブセッティング * ピンカールとウェーブのバランスを理解させる。			
第3週	・ワインディング(センターの配列を理解させる) * ブロッキングのタイムアップ。		第18週	・カット&ブロー(グラデーション) ・ワインディング(タイムアップを目指す。)			
第4週	・シャンプー(週2時間実施) ・ワインディング(センターを綺麗に巻く)		第19週	・オールウェーブ(スカルプチュアカール) ・シャンプー&トリートメント(相モデル)			
第5週	・サイドシャンプー(相モデル) ・ワインディング(全頭・構成を理解させる)		第20週	・カット&ブロー(レイヤー・セイルレングス) ・ヘアカラー(ブリーチ・塗布の仕方)			
第6週	・ワインディング(全頭のタイムアップ) ・シャンプー&トリートメント(週2時間実施)		第21週	・ヘアカラー(ダブルカラー) ・オールウェーブ(リフト・メイポール・クロッキー)			
第7週	・セットアップ(アイロン使用) * 編み込みアレンジヘア		第22週	・オールウェーブ(7構成を理解させる) ・ワインディング(タイムアップを目指す。)			
第8週	・シザーの開閉(美容理論1参考) ・カット&ブロー(ワンレングス)		第23週	・カット&ブロー(ディスコネクション) * スタイルのバランス感を養う(錯覚現象)			
第9週	・まつ毛エクステンション(顔部の名称をウイッグで覚える) * まつ毛エクステンションの教科書参照		第24週	・オールウェーブ(復習) ・ワインディングのテスト(フォローアップ授業)			
第10週	・セットアップ(アイロン使用) * アイロンの使い方。(カールの出し方。)		第25週	・校外実習(ロールプレーン練習) * 実践を想定した動線とお客様対応			
第11週	・第5章まつ毛エクステンション技術 * ウイッグを使用。復習		第26週	・オールウェーブ(復習と見極め) ・ワインディング(見極め)			
第12週	・セット・カット&ブロー(仕上げ) * 錯覚現象を理解させる。		第27週	・ヘアカラー(ウイーピング・スライジング) ・オールウェーブ(タイムアップを目指す。)			
第13週	・ワインディング(タイム30分) * 見極め(放課後フォローアップ)		第28週	・ワインディング(後期試験) ・オールウェーブ(後期試験)			
第14週	・カット(レザーの使い方) * カット技法を覚える。		第29週	・カット&ブロー・カラーリング * 作品作り			
第15週	・ワインディング(30分) * 前期試験 オールウェーブ(フィンガーウェーブの作り方)		第30週	・ワインディング(規定のタイムを目指す。) ・オールウェーブ * 2年次に向けての調整。			
評価方法	<p>・授業内で定期試験を実施し、授業内では実技及び衛生チェックの小テスト、授業態度や出席状況を考慮して成績を評価する。</p> <p>※評価目安: 定期試験(70%)・実技及び衛生チェックの小テスト(20%)・授業態度や出席(10%)</p>						
教科書 教材など	<p>・「美容技術理論1・2」</p> <p>・「美容師実技試験課題(技術の解説)」</p> <p>・プロジェクター(パワーポイント使用)</p>		<p>公益社団法人 日本理容美容教育センター発行</p> <p>公益社団法人 日本理容美容教育センター発行</p>				
実務経験	森下 堅一:美容師経歴7年 / 井上 祐樹:美容師経歴6年 岩瀬 泰 :美容師経歴23年			実務経験のある教員による 授業科目			✓

## 2019年度 授業計画(シラバス)

科目名	ビジネスマナー		コース名	ヘアビューティ		
担当教員	時實 好恵	学年・学期	1年・通年	時間数	30 時間	必須・選択 必須選択
授業概要・ 授業方法	美容業での接客業務を中心としたビジネスの場面に応じた言葉の使い方、電話対応、接客など基本的ビジネスマナーと、コミュニケーションビジネスの場面に応じた良好な人間関係を構築することの意義や必要性及びビジネスに対する望ましい心構えや考え方について学ぶ授業。 授業は主として講義形式で行い、学習内容に応じての演習や実際の事例(合同サロン説明会や美容所実習)に合わせた準備学習、事後学習を行う。					
到達目標	ビジネスマナーでの学習を出発点とし、美容所実習に関する指導、進路の指導、その他の教科・科目とも組み合わせたキャリア教育としてのコミュニケーション能力の育成。					
授業計画・内容						
第1週	ビジネスマナーの授業概要、受講上の注意		第16週	電話対応⑤(予約電話の受け方)		
第2週	美容業界の接遇の特徴・顧客満足		第17週	電話対応⑥(予約電話の演習問題)		
第3週	好印象を与えるポイント①(メラビアン法則)		第18週	電話対応⑦(電話のかけ方)		
第4週	好印象を与えるポイント②(見た目による印象)		第19週	電話対応⑧(伝言メモの作成、FAXの送り方)		
第5週	好印象を与えるポイント③(身だしなみ)		第20週	電話対応⑨(伝言メモ作成の演習問題)		
第6週	好印象を与えるポイント④(接客用語、敬語)		第21週	合同サロン説明会参加の心得		
第7週	好印象を与えるポイント⑤(尊敬語、謙譲語)		第22週	接客対応①(心構え、受付～お見送り)		
第8週	好印象を与えるポイント⑥(丁寧語、接頭語)		第23週	接客対応②(施術中に使用する言葉)		
第9週	好印象を与えるポイント⑦(敬語の演習問題)		第24週	接客対応③(お茶の出し方、来客対応演習1)		
第10週	好印象を与えるポイント⑧(間違いやすい敬語)		第25週	美容所実習参加の心得		
第11週	好印象を与えるポイント⑨(敬語の演習)		第26週	美容所実習をお礼状作成		
第12週	電話対応①(電話の特性、電話話法の基本)		第27週	接客対応④(会計～後片付け)		
第13週	電話対応②(電話対応の基本用語)		第28週	接客対応⑤(階段、エレベータ利用でのご案内)		
第14週	電話対応③(電話の受け方の基本)		第29週	接客対応⑥(席次、来客対応演習2)		
第15週	電話対応④(電話の受け方の演習)		第30週	接客対応⑦(お客様以外の来客対応)		
評価方法	定期試験、出席状況、提出物、授業態度を考慮して成績を評価する。 ※評価目安: 定期試験(50%)・出席状況(15%)、提出物(15%)、授業態度(20%)					
教科書 教材など	プリント、ファイル、びんせん、封筒					
実務経験				実務経験のある教員による 授業科目		

## 2019年度 授業計画(シラバス)

科目名	ヘアカラーコーディネート		コース名	ヘアビューティ			
担当教員	パステルカラー(安井けい子、森 香絵)	学年・学期	1年・通年	時間数	60時間	必須・選択	必須選択
授業概要 授業方法	<p>・日々の生活にあたりまえにある、「色」について基礎知識を幅広く学ぶ授業である。基礎理論については、テキストを元にポイントをおさえて学び、各单元ごとに復習と、理解度を確保するための小テストを実施する。</p> <p>・授業は講義形式を中心に理論を応用した作品を創る実習に加え、色彩心理、配色、ファッションやインテリアについて、個人やグループワーク等、主体的かつ対話的に取り組めるように行う。</p> <p>希望者は、「色彩検定3級」取得を目指す。</p>						
到達目標	<p>本科目「ヘアカラーコーディネート」は、基礎的な色彩についての知識を習得し、自ら考え、日々の生活や専門分野へ応用できることを目標としている。また、幅広い視点で色彩に触れることで、五感や感性、言葉や色で表現する能力を育む。また、グループワークにおいては、他者との関わり方、協調性、コミュニケーション能力を高め、自己理解と他者理解、さらには、社会人基礎力を身につけることをねらいとしている。</p>						
第1週	オリエンテーション、カラーセラピー体験	第16週	色彩調和、トーン配色について、カード実習				
第2週	身の回りにある色、色と光、カラー実習	第17週	前期試験対策				
第3週	生活環境と色彩(グループワークと発表)	第18週	配色技法、ネイルデザイン実習				
第4週	照明と色、色の分類、小テスト	第19週	ファッションと色彩、配色実習				
第5週	色の分類と三属性、配色ぬりえ実習	第20週	インテリアと色彩、配色実習				
第6週	PCCS色相環について、カード実習	第21週	プロダクトと色彩、配色実習				
第7週	PCCSストーンについて、カード実習	第22週	色彩と言葉の関わり・カード実習				
第8週	PCCS総合復習と小テスト	第23週	ヘアデザインと配色実習				
第9週	色と香りの相関関係(アロマセラピー体験)	第24週	混色と配色(パステルアート実習)				
第10週	混色とは何か、色彩心理	第25週	季節感と色彩(クリスマスカード作成実習)				
第11週	色彩心理コラージュ作成(グループワーク)	第26週	ヘアサロンインテリア実習				
第12週	色の視覚効果(対比と同化)、ヘアカラー実習	第27週	パーソナルカラーとは①、カード実習				
第13週	季節感と色彩、作品作成実習	第28週	パーソナルカラーとは②(グループワーク)				
第14週	カラーコミュニケーション(グループワーク)	第29週	後期試験対策①(グループワークと発表)				
第15週	色彩調和、色相配色について、カード実習	第30週	後期試験対策②				
評価方法	<p>定期試験は前期・後期共に実施し、小テスト、課題提出、出席状況、授業態度を考慮して成績評価をする。</p> <p>* 評価目安: 定期試験(60%)・課題提出及び小テスト(20%)・授業態度や出席(20%)</p>						
教科書 教材など	<p>出版社:(株)A・F・T企画。 書名:色彩検定公式テキスト3級、検定過去問題、カラーカード</p>						
実務経験	安井 けい子:パステルカラー(スクール)。色彩検定、パーソナルカラー担当20年			実務経験のある教員による授業科目		✓	



## 2019年度 授業計画(シラバス)

科目名	美容総合研究			コース名	ヘアビューティ		
担当教員	仁井名 由記	学年・学期	1年・通年	時間数	30 時間	必須・選択	必須選択
授業概要 ・ 授業方法	<p>・毛髪の基礎知識を学ぶことで毛髪診断の必要性を理解させ、髪質に合ったヘアケア剤、薬剤の選定方法に役立てる。</p> <p>・授業方法は講義形式を中心に授業によっては実験を交えて毛髪の理解を高めるために毛髪診断を行い、頭皮の観察、毛髪の診断を行う。</p>						
到達目標	美容師に必要な毛髪を取り扱っていく上での知識を習得し、就職してからお客様の頭皮から毛髪についての相談に乗れるよう実践に役立てる。						
授業計画・内容							
第1週	物質の構成	第16週	ブリーチと毛髪損傷				
第2週	溶解とコロイド	第17週	ヘアダイと毛髪損傷				
第3週	飽和溶液と不飽和溶液	第18週	ヘアダイが染まって褪色しにくいわけ				
第4週	イオンと水素イオン指数	第19週	アルカリ分をほとんど含まないヘアダイ				
第5週	酸と塩基の定義と強弱	第20週	ヘアダイかぶれはアレルギー				
第6週	物質の変化と化学反応	第21週	ヘアマニキュアは酸性染料				
第7週	酸化・還元反応	第22週	その他染毛料のいろいろ				
第8週	タンパク質	第23週	毛髪とパーマ				
第9週	ケラチン	第24週	パーマの原理				
第10週	毛髪基礎知識①	第25週	パーマ1剤は還元剤、2剤は酸化剤				
第11週	ヘアサイクルとは？	第26週	パーマと毛髪損傷				
第12週	ケラチンは丈夫なタンパク質	第27週	ロッドとウェーブ				
第13週	毛髪はやや酸性が傷みにくい	第28週	パーマ2剤では中和しない				
第14週	毛髪とヘアカラー	第29週	毛髪診断 実習				
第15週	ブリーチの仕組み	第30週	毛髪診断 実習				
評価方法	<p>定期試験は実施せずに、課題、出席状況、授業態度を考慮して成績を評価する。</p> <p>評価目安：小テストやレポート(50%)・授業態度や出席(50%)</p>						
教科書 教材など	<p>出版社：株式会社ビービーコム 書名：毛髪科学を知る及び毛髪のひみつ</p> <p>出版社：公益社団法人日本理容美容教育センター 書名：香粧品化学</p>						
実務経験	株式会社 毛髪クリニックリープ21 3年				実務経験のある教員による 授業科目		✓

## 2019年度 授業計画(シラバス)

科目名	一般教養(一般常識・手話)		コース名	ヘアビューティ			
担当教員	(前期): 網浜 葉子/山根 淑子 (通年)末次 厚志	学年・学期	1年・通年	時間数	45 時間	必須・選択	必須選択
授業概要 ・ 授業方法	(1)[一般常識]: 高校までに学習した漢字の読み書き、計算、時事問題など社会に出てから必要となる基礎知識を復習する。 ・授業は講義形式で学生の基礎知識の差があるため基本的な項目を復習しながら進めていく (2)[手話]: 言語としての手話の特徴や、手話を豊かに表現する基礎作りから、ろう者と日常会話がある程度できるまでを統計的に学ぶ。 ・授業は演習形式で生徒が授業に取り組めるようまた復習や反復練習で技術をきちんと習得できるように進めていく。						
到達目標	(1)[一般常識]: 社会にでた時に困らないように漢字の読み書き及び小数点や加減乗除の計算、濃度計算、時事問題を理解させ、また国家試験筆記での問題を読み文書の意味が分かるように教える。 (2)[手話]: 聴覚障害者とのコミュニケーションに必要な手話を理解し、聴覚障害者に対してスムーズな対応ができることが目標である。						
授業計画・内容							
第1週	(1) 日常漢字を中心に教え復習させる。 (2) 伝え合ってみよう。名前を紹介しましょう。	第16週	(1) 社会常識またはその時にタイムリーに起っている時事問題を確認し学習する。				
第2週	(1) 漢字の読み書きの復習 (2) 名前を紹介しましょう。	第17週	(1) 社会常識またはその時にタイムリーに起っている時事問題を確認し学習する。				
第3週	(1) 漢字の読み書きの復習 (2) 家族を紹介しましょう。	第18週	(1) 計算の基礎(小数点・分数)の復習から加減乗除の計算方法を教える。				
第4週	(1) 慣用句の学習 (2) 数を使って話しましょう。	第19週	(1) 計算の基礎(小数点・分数)の復習から加減乗除の計算方法を教える。				
第5週	(1) 慣用句の復習 (2) 趣味について話しましょう。	第20週	(1) 計算の基礎(小数点・分数)の復習から加減乗除の計算方法を教える。				
第6週	(1) 慣用句の復習 (2) 仕事について話しましょう。	第21週	(1) 割合・百分率の計算の仕方を学ぶ				
第7週	(1) 文章能力を高める「読む力」 (2) 住所を紹介しましょう。	第22週	(1) 割合・百分率の計算の復習				
第8週	(1) 文章能力を高める「読む力」 (2) 1日のことを話しましょう。	第23週	(1) 割合・百分率の計算の復習				
第9週	(1) 文章能力を高める(解読力) (2) 1か月のことを話しましょう。	第24週	(1) 百分率を使って濃度計算の練習				
第10週	(1) 文章能力(解読力) (2) 1年のことを話しましょう。	第25週	(1) 百分率を使って濃度計算の練習				
第11週	(1) 基本的な計算問題を教える (2) パーティーのことを話しましょう。	第26週	(1) 慣用句の復習により事務処理やお客様の予約時に必要なところを学習する				
第12週	(1) 基本的な計算問題を教える (2) 旅行のことを話しましょう。	第27週	(1) 慣用句の復習により事務処理やお客様の予約時に必要なところを学習する				
第13週	(1) 小数点・分数の計算 (2) 病院のことを話しましょう。	第28週	(1) 前期でやった範囲を総合的に確認しプリントにまとめ授業展開を行う				
第14週	(1) 小数点・分数の計算 (2) 学校のことを話しましょう。	第29週	(1) 前期でやった範囲を総合的に確認しプリントにまとめ授業展開を行う				
第15週	(1) 今までのまとめ (2) 試験	第30週	(1) 前期・後期授業のまとめと復習				
評価方法	・(1)「一般常識」: 定期試験を実施し、課題内容を考慮し成績を評価する。 ※評価目安: 授業使用ファイルの確認(10%)・定期試験(90%) ・(2)「手話」: 定期試験を実施して、日ごろの授業態度や出席状況を考慮して成績を評価する。 ※評価目安: 定期試験(80%)・授業態度や出席(20%)						
教科書 教材など	(1) 講師作成プリント(一部引用 出版: 廣済堂あかつき 書名: 実践就職問題集) (2) 出版社: 一般財団法人全日本ろうあ連盟 書名: 「聴さんと学ぼう」						
実務経験						実務経験のある教員による 授業科目	

# 2019年度 授業計画(シラバス)

科目名	サロンワーク I		コース名	ヘアビューティ			
担当教員	奥田 京子	学年・学期	1年・通年	時間数	60 時間	必須・選択	必須選択
授業概要 ・ 授業方法	<p>・美容師として仕事の幅を広げるために必要なメイク技術の理解を深めることで、ヘア&amp;メイクのトータル的なデザインに繋げることができる基礎知識を学ぶ授業である。</p> <p>・授業方は、実技演習ではより実践的な相モデルで授業を実施し、また講義形式では基本的な道具の使用方法や持ち方などを徹底的に指導すると共に、メイクに必要な色のもつバリエーションを理解させる。</p>						
到達目標	<p>・一般社団法人 JMA シュウ ウェムラ メイクアップ技術検定取得に向け実践的に役立つ授業を行うことで美容師として、お客様にメイクのアドバイスをできるように指導する。</p>						
<b>授業計画・内容</b>							
第1週	化粧品 の定義 化粧品 の位置づけ、使用する化粧品 の目的及び特徴		第16週	スキんケアの相モデルでテクニックのテスト(20分)15人			
第2週	メイクアップ理論 ベーシックテクニックの重要性、プロフェッショナルにとってのメイクアップの必要性		第17週	スキんケアの相モデルでテクニックのテスト(20分)15人			
第3週	道具の準備 ハードフォーミュラ(アイブローペンシル)を削る		第18週	ベーシックメイクアップ)を相モデルで実習。 確実なテクニックの習得、時間内(30分)での仕事を意識し、完成度の高いメイクアップ技術を身につける。タイムの計測しての練習			
第4週	セルフメイクアップ、メイクアップ化粧品の使用方法を確認させ。		第19週	ベーシックメイクアップ)を相モデルで実習。 確実なテクニックの習得、時間内(30分)での仕事を意識し、完成度の高いメイクアップ技術を身につける。タイムの計測しての練習			
第5週	スタンスチェック メイクモデルの扱い方などを、相モデルで確認		第20週	ベーシックメイクアップ)を相モデルで実習。 確実なテクニックの習得、時間内(30分)での仕事を意識し、完成度の高いメイクアップ技術を身につける。タイムの計測しての練習			
第6週	ベースメイクアップ( アンダーベース・ファンデーション・フェイスパウダー)展示および実習 ファンデーションの色選		第21週	カラーカウンセリング システムの理解とカラーベースによるコーディネート ブルーベース、イエローベースに基づき、カラーベースを統一させたメイクアップデザインを考案する。			
第7週	ベースメイクアップの復習 スタンスやモデルの扱い方再確認理解		第22週	カラーカウンセリング システムの理解とカラーベースによるコーディネート ブルーベース、イエローベースに基づき、カラーベースを統一させたメイクアップデザインをグループワークする。			
第8週	ベースメイクアップ復習(相モデルで実習) 手順、テクニックのポイントなどを再確認、理解させる。		第23週	カラーカウンセリングシステムに基づいたメイクアップ実習1 (デザイン画に基づいたブルーベースの実習)			
第9週	ベースメイクアップ復習 リップメイクアップ展示及び実習 道具の扱い方、ブラシワーク、手順、テクニックのポイントを確認する。技術チェック後は、リップクレンジングをおこないモデルチェンジするなどして、テクニックの反復練習を行う。		第24週	カラーカウンセリングシステムに基づいたメイクアップ実習1 (デザイン画に基づいたブルーベースの実習) 前回とは、違うモデルで実習			
第10週	ベースメイクアップ、リップメイクアップ復習 アイメイクアップ(アイシャドー)展示及び実習 プレisd アイシャドーを使用したシングルパターンテクニックのポイントを理解する。 道具の扱い方、ブラシワーク、手順、テクニックを理解する。		第25週	カラーカウンセリングシステムに基づいたメイクアップ実習2 (デザイン画に基づいたイエローベースの実習)			
第11週	ベースメイクアップ、アイメイクアップの復習、アイメイクアップ展示、アイブローメイクアップ展示及び実習 眉のブローポジション、道具の扱い方、アイブローの描き方、手順、テクニックのポイントを確認する。 技術チェック後は、アイブローブラシで取り去り、ベースメイクアップを整え、ドローイングを反復練習する。		第26週	カラーカウンセリングシステムに基づいたメイクアップ実習2 (デザイン画に基づいたイエローベースの実習) 前回とは、違うモデルで相モデルで実習			
第12週	ベースメイクアップ、アイメイクアップ、リップメイクアップ、アイメイクアップ、アイブローメイクアップ復習 チークメイクアップ展示及び実習 道具の扱い方、ブラシワーク、手順、テクニックのポイントを確認する。		第27週	カラーカウンセリングシステムに基づいたメイクアップ実習3 (モデルに合わせたカラーコーディネートの実習)			
第13週	ベーシックメイクアップ復習 (ベースメイクアップ~チークメイクアップを重視し、完成度の高いメイクアップ技術を身につける。		第28週	カラーカウンセリングシステムに基づいたメイクアップ実習3 (モデルに合わせたカラーコーディネートの実習)モデルを変えての実習			
第14週	ベーシックメイクアップ)を相モデルで実習。 確実なテクニックの習得、時間内(30分)での仕事を意識し、完成度の高いメイクアップ技術を身につける。		第29週	カラーカウンセリングシステムに基づいたメイクアップ実習3 (モデルに合わせたカラーコーディネートの実習)モデルを変えての実習			
第15週	ベーシックメイクアップ)を相モデルで実習。 確実なテクニックの習得、時間内(30分)での仕事を意識し、完成度の高いメイクアップ技術を身につける。反復練習		第30週	各自カラーカウンセリングに基づいたナチュラルメイクの発表・感想			
評価方法	<p>・定期試験の実技は授業中に、学科は授業外で実施し、授業態度や出席状況及びノート提出を考慮して成績を評価する。</p> <p>※評価目安:毎時間の授業態度や出席及びノート提出(50%)・授業中の技術チェックや定期試験(50%)</p>						
教科書 教材など	<p>一般社団法人 JMA (日本メイクアップ技術検定協会)MEKEUP TECHNIQUE CERTIFICATION EXAMINATION</p>						
実務経験	美容師経歴4年			実務経験のある教員による 授業科目		✓	

## 2019年度 授業計画(シラバス)

科目名	サロンワークⅡ		コース名	ヘアビューティ			
担当教員	(前期) 丸山 江里奈 (後期) 森下 堅一/井上 祐樹	学年・学期	1年・通年	時間数	60 時間	必須・選択	必須選択
授業概要 ・ 授業方法	<p>(前期): 実際にサロンワークで使用する商材・薬剤を使用することでトラブルやアレルギーに関する知識・用具の取扱いに注意・まつ毛の構造等を学ぶ。授業は実技演習を中心にウイッグでの演習とグループワークを行うことで、関心を高め基本装着からデザインまでのテクニックを身に付ける授業である。</p> <p>(後期): 美容師に必要な指先を動かす練習として主に基本的な三つ編みから応用までを行い、またアップ時に必要とされるピンやブラシの使い方を教える。授業は実技演習形式で行い、指先の動きがみえるようにデモンストレーションゆくり分りやすく繰り返して教え、できない学生には再度デモンストレーションを個別に行い、できる楽しさを教える。</p>						
到達目標	<p>(前期): 目や目元の繊細な施術であることを十分理解し、安心安全を第一として配慮を身に付ける。またアイリストは、美容師免許がないと出来ない職業なので、深い知識と技術を身に付けることを目標にする。</p> <p>(後期): 美容師の仕事は基本的に指先を使うことが大切であり、シャンパー、ブロー、カット、アップ等の技術も基本は同じであり、サロンワークⅡの授業を通して不器用でも練習する大切さを身に付けさせる。</p>						
授業計画・内容							
第1週	オリエンテーション・まつ毛エクステーションとはトラブルの紹介	第16週	ウイッグで三つ編みの手順				
第2週	まつ毛の一般理論・毛髪学 地まつ毛診断(グループワーク)	第17週	ウイッグで三つ編みを細かく作る				
第3週	カウンセリングの内容と意味(グループワーク) エクステに触れる	第18週	ウイッグでツイストの手順から応用				
第4週	道具の取扱い①(ツイザー) エクステの取り方、持ち方	第19週	フィッシュボーンの手順から応用				
第5週	道具の取扱い②(グルー・グループレート) エクステの装着	第20週	四つ網みの手順から細かく作る				
第6週	道具の取扱い③(エクステーション・テープ) テープワーク・エクステの装着	第21週	編み込み(三つ編み・裏網み・ツイスト)				
第7週	道具の取扱い④(プレケア剤) クリーニングの仕方・エクステ装着	第22週	三つ編みを利用してハーフアップ				
第8週	道具の取扱い⑤(リムーブ剤)エクステ装着・リムービングの仕方(ジェル・クリーム)	第23週	三つ編みを利用してのアップ ピンの止め方とブラシの使い方				
第9週	まつ毛エクステ連の工程復習	第24週	V字編み・丸四つ網の手順				
第10週	まつ毛エクステに関する衛生管理・接触皮膚炎	第25週	編み込みを取入れたアレンジヘア				
第11週	目元のマッサージの仕方・ツボの位置・効果	第26週	アレンジスタイル応用① ルーズ感を出す・アイロン使用				
第12週	デザイン作成①(キューティーライン)	第27週	アレンジスタイル応用② ルーズ感を出す・アイロン使用				
第13週	デザイン作成②(セクシーライン)	第28週	アレンジスタイル応用③ ルーズ感を出す・アイロン使用				
第14週	デザイン作成③(グラマラスライン)	第29週	V字編み・丸四つ網の復習				
第15週	まとめ・実技試験	第30週	エクステーションの付け方 V字編み・丸四つ網を利用する				
評価方法	<p>(前期): 定期試験を実施し実技は授業内で行い、授業外での筆記試験、授業時に使用するプリント提出、授業態度、出席状況を考慮して成績を評価する。 ※評価目安: 実技テストや筆記試験(60%)・プリント提出(30%)・授業態度や出席(10%)</p> <p>(後期): 学期末試験を実施せずに授業中の取り組む姿勢や技術チェック、成長度、出席状況を考慮して成績を評価する。 ※評価目安: 授業中の意欲、実技チェック(50%)・成長度(40%)・出席状況(10%)</p>						
教科書 教材など	<p>(前期): 出版社: 日本理美容教育センター 書名: まつ毛エクステーション (後期): 出版社: 株式会社アイメディア 書名: パーティアップ(ドレスアップ・ドレスダウンスタイルの作り方)</p>						
実務経験	前期: 丸山 江里奈 e"ye"R i na(アイリーナ)自サロン 後期: 森下 堅一: 美容師経歴7年/井上 祐樹: 美容師経歴6年				実務経験のある教員による 授業科目		✓